

第2回「愛媛の未来づくりプラン」推進懇話会の開催結果

- 1 11月11日(月)「愛媛の未来づくりプラン」推進懇話会(会長 東 淵則之松山大学経営学部教授)を開催し、8月に開催した第1回懇話会意見を踏まえ、作成したアクションプログラムの中間評価について意見交換を行った。
- 2 懇話会では、
ほとんどの施策で新たな取組み等を実施し、事業効果が具体的に表れており、着実に実績を積み上げてきている。
成果指標のうち、順調に推移しているものは45.8%にとどまっているが、中間評価という時点を考慮すると妥当
引き続き重点施策を中心に取組みを強化し、成果に繋げていくことが必要
の意見があった。上記をまとめた推進懇話会意見を中間評価に記載したうえで、11月下旬に公表する。
- 3 その他の意見については、下記のとおり。
環境分野が他の分野に比べて弱く見えるので、公表の際には何らかの説明が必要
全体的にコンパクトかつ具体的で、分かりやすい資料となっている。
県と市町の連携も重要であるが、部局間の連携も図るべき

「愛媛の未来づくりプラン」推進懇話会委員一覧

委 員		備 考
東 淵 則 之	松山大学経営学部教授	会長
桐 木 陽 子	東雲短期大学教授	
日 野 克 博	愛媛大学教育学部准教授	
小 池 あ ゆ み	衣サイクル研究会代表	
下 田 知 行	日本銀行松山支店長	副会長

《懇話会委員の主な意見》

中間評価について

- ・環境分野について、弱いとっていないが、成果指標が33.3%で、4分野の中で弱い印象を県民に与えてしまうので、公表の際には、何らかの提案など説明が必要
- ・参考資料2のグラフは、数値の向上、抑制どちらの方向がいいのかなどが分かるようにする必要がある
- ・全体的にコンパクトかつ分かりやすく、具体性が増した。
- ・ほとんどの施策で新たな取組みなどが行われ、事業効果が表れている。また、今後の課題も見えつつある。
- ・全体として取り組んでいることが見え、進捗状況が約半分という結果は、中間評価としては、ある種当然
- ・参考資料を添付して、多くの情報があって分かりやすくなっており、情報公開という意味でもよいと思う。
- ・成果指標のうち、順調に推移しているものが45.8%にとどまっており、重点施策を中心に取組みを強化し、成果を上げていくことが必要

その他長期計画の推進について

- ・次年度の重点施策を選定する際には、社会情勢の変化などを考慮したことがわかるようなものを作成してもらいたい。
- ・成果指標の中には、県の施策だけではどうにもならないものがあることなどが県民にもわかるようにしてもらいたい。
- ・1つの施策が、他の施策にも影響を与えるというところにも見ていかないとけない。
- ・次期長期計画を策定する際には、成果をどういう風に評価していくのが大切で、各項目ごとの評価を超えて、本来達成する目的を見失わないように議論していくべき
- ・長期計画は施策ごとに割っているのが、事業の繋がりが分断されているが、逆に目的から評価を考えていくという方法もある。
- ・ある事業が、それ以外の分野等にも効果があるということが分かる「つながりマップ」などがあるとよい。
- ・県と市町の連携も重要であるが、部局間の連携も図るべき